

新潟生命歯学部77回卒同窓会開催される(沖縄)

平成27年11月22日(日)17時から那覇市のホテルオリオンにて標記の同窓会が開催された。夏を思わせる気温28℃、紺碧の海と青い空の沖縄に新潟77回卒24の獅子(しーさー)が集結した。今回同窓会の幹事は名護市で開業している名嘉真武伸君と那覇市で開業している濱口順子(旧姓:瀬古)さんの2人で運営企画をしていただいた。同窓会に先立ち企画第1弾の「懇親会」に前日のすっかり那覇の街に光がともったころに1人また1人集まってきた。その数はなんと17名。何度乾杯をしたことだろうか。沖縄の「食」に舌堤を打ち、心も胃袋も満足したに違いない。

企画第2弾は沖縄に存在する800種類の泡盛をストックする名店「泡盛倉庫」に移動して琉球王府料理の「どうるわかしー(田芋料理:美味)」と東洋のチーズと言われる「豆腐よう」(新潟76回卒宮里毅先生のご実家:宮里酒造の春雨と島豆腐を発酵させた珍味)を肴に思い思いの泡盛に酔い、程よく楽しい時間を過ごした。

そして翌朝は企画第3弾のミニ観光ツアー(参加希望者のみ)。名嘉真君運転の10人乗りのワゴンで国道58号線を北上し、「嘉手納基地」を「道の駅かでな」の屋上から見学した。高速道路でさらに北上して誰もが知る一路「辺野古」へ。テレビで見ているのと違う臨場感ある現場を視察することができた。次はやや早い昼食を「名護曲」で沖縄そばを堪能した。そして男子諸君がお楽しみの「オリオンビール工場見学」。真剣な眼差しで説明を聞く諸君の心はオリオン生の試飲会のことだけ。30分の説明はどれだけ長く感じたことだろうか。オリオンビールグラス2杯とおつまみをい

ただき、なんと昼間から至福な時間を名護で過ごして那覇に戻った(名嘉真君に感謝)。同窓会の開演に先立ち谷口伸剛君の「がん予防のための生活習慣」の講話の後、総会を経ていよいよ標題の同窓会が始まった。名嘉真君の司会により同窓会副会長を務める藤井一維君の挨拶、沖縄のチャップリンと呼ばれた小那覇舞天(ぶーてん)先生の話、沖縄県校友会会長の渡口真一先生(59回)、沖縄県歯科医師会長の比嘉良喬先生(新潟70回)のご挨拶を賜り、歯学会評議員・長嶺忍先生(78回)の乾杯で祝宴の幕開けとなった。桑原君が準備してくれたスライドの31年前の似顔絵に会場からの熱い視線と歓声が飛び交う場面も。そして名嘉真君主導によるご当地お土産自慢(幹事の名嘉真君から始まり1,000円程度の持ち寄った土産自慢と近況を報告して箱の中の出席者の名札を引いて次の指名をして土産を渡す)。これを繰り返す。これは名案だ!稲庭うどんあり萩の月あり。中には我々の青春の館「大竹座ビル」解体された後のブロック(珍品?)に怒涛の中にも涙と大爆笑の余韻を残しつつ次回幹事の藤井一維君、石橋千代子さんにバトンを渡して濱口順子さんが、びしっとしめてくれました。二次会は「三線にゆんたく(おしゃべり)」のショーを比嘉光龍さん(沖縄では有名な方)にお願いした。アメリカ人が父、母親が日本人の2人の間に生まれた光龍さん(沖縄の呼び方ではいろんさん)のうちなんちゅう(沖縄の言葉)と楽しいトーク。カチャーシー(沖縄のおめでたいときの踊り)は三線の音色に合わせ全員が両手を頭の上にあげて夢中で踊りました(学生時代にこんなことあっでしょう

か?)。サプライズとして同窓会当日が誕生日の松井智幸君と11月生まれの石橋千代子さんのためにお誕生ケーキの準備。いやいや完璧な演出にぐっと来ました。またみんなで沖縄に集まろう!と楽しい宴はいつまでも心に残像を残したに違いないと思います。

(文責:水沼秀樹,
写真:名嘉真武伸)

